

第36回 通常総会 議案書



日

時

2025年3月5日(水)

12:45 開会 ～ 15:45 閉会

【受付開始】12:15 【会場】有楽町朝日ホール



パルシステム生産者・消費者協議会

東京都新宿区大久保2丁目2-6 ラクアス東新宿 TEL (03)5292-8250

パルシステム生産者・消費者協議会

第36回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議
 - 第1号議案 2024年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
 - 第2号議案 2025年度活動方針案並びに予算案承認の件
 - 第3号議案 役員改選の件
7. 議長解任
8. 閉会の辞

《目次》

第1号議案	2024年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件	01
第2号議案	2025年度活動方針案並びに予算案承認の件	11
第3号議案	役員改選の件	13
	【資料】	14
	【会員名簿】	26

第1号議案

2024年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

《2024年度の振り返り》

2024年は、食料安全保障の強化や環境問題への対応などを背景に「食料・農業・農村基本法」（1999年制定）が初改正されました。パルシステム生産者・消費者協議会（以下、生消協）は、基本法改正に向けた院内集会（3月19日）にて、小川保代表幹事が生産者を代表して意見表明し、次世代が継ぎたいと思えるような農業政策を実現するよう訴えたほか、食料・農業・農村基本法改正6生協学習会（10月11日）では宮北輝幹事による畜産政策への提言を行うなど、これから10年先の食料・農業・農村に向けてパルシステムと共に行動しました。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震を受け、生消協ではパルシステムおよびパルシステム協力会と共に被災産地・団体へ災害見舞金を拠出し、農林水産業や伝統産業などの再生を支援しました。しかしながら、9月21日から23日にかけて復興途上の能登では記録的な豪雨により、さらなる甚大な被害に見舞われました。能登半島の奥まった土地柄や深刻な人手不足により、復興には程遠い現実があります。

2024年の夏は全国的に記録的な猛暑であった2023年を上回る長期高温を記録するなど、気候変動による影響は深刻化しました。米は2023年比では全国的な生産量は増加したものの猛暑による精米歩留まりの低下や、8月8日には南海トラフ地震臨時情報がされ備蓄需要が急増するなどの要因により「令和の米騒動」として米不足が社会問題化し、歴史的な米価高騰へとつながりました。野菜は猛暑による高温障害の発生や生育不良、秋冬野菜の作付けの遅れや病虫害被害により生産減少が生じました。果樹は高温による着色不良や生理障害のみならず、病虫害・鳥獣害の被害が拡大し生産減少が生じました。畜産は高温による繁殖率や肥育への影響があり、特に豚肉の生産低迷が顕著に表れました。鶏卵は高温影響による卵重低下が長期化したほか、鳥インフルエンザは10月に発生が報告され影響が全国に広がるなど、農畜産業の生産現場では、これまで長年にわたって培われた経験や技術だけでは対応ができない事態に直面しています。

気候変動による影響のみならず、急速にすすむ高齢化や担い手不足などの労働者不足、深刻な燃料や農業関連資材などの物価高騰が追い打ちをかけ、2024年の国内の農業関連倒産件数（東京商工リサーチ発表）は、コロナ禍の影響により年間最多となった2020年の80件を超え、年87件と過去最多を更新しました。2024年農業構造動態調査（農林水産省発表）では、個人農家や法人などの「農業経営体」の数は前年比5%減少し88万3300経営体となり、比較可能な2005年から毎年減り続けている状況です。

このような状況の中で、生産者は次世代の担い手が魅力を抱く持続可能な農業経営ができ、消費者が安定的な食生活を営むための「再生産可能な農業」の在り方について、生産者と消費者の協議をより一層深めることが急務となっています。生消協設立の原点に立ち返り、生産者と消費者の相互理解をより一層深めると共に、パルシステムおよびパルシステム協力会とのパートナーシップによる新たな価値の創造に向けて、2024年度の活動を次のように振り返り、2025年度の活動方針へと繋げます。

《重点方針と具体的施策》

1. 産直による地域づくりをすすめます

(1) 国際情勢や気候変動に伴う国難級の事態に対して、生産者と消費者による産直の底力と地域や立場を超えた連帯により、新たな産直を構築していきます。

①第35回通常総会後のフォーラム（3月6日）では、東京大学大学院の鈴木宜弘教授を講師として、「食の未来へつなげるために生産者と消費者ができること」をテーマに、日本の食を取り巻く環境、食料・農業・農村基本法改正、みどりの食料システム戦略、生産から消費までのローカル自給圏など、食料安全保障に関する知見を深めました。



▲鈴木教授による講演の様子

②パルシステムの食料・農業政策見直し論議には小川保代表幹事、エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会には毛利嘉宏生産者運営委員長をはじめとする生産者・消費者幹事が参画し、新たな産直の在り方、持続可能な農畜産物生産について相互理解を深めながら協議を行いました。

③パルシステム連合会との共催により開催した第1回オーガニック技術交流会議（1月18日-19日）では、パルシステムに有機農産物を出荷する22団体53名、パルシステム関係者を含む総勢78名が集い農法交流を深め、産地間での訪問が行われるなど、今後の有機農業の発展に向けて生産者間のネットワークづくりがすすみました。生消協からは小川保代表幹事と共に生産者幹事・消費者幹事が参加し、オーガニック技術交流会議を機に生消協内での有機・オーガニック議論が深められました。



▲第1回オーガニック技術交流会議の様子

(2) 「社会情勢」や「くらし」の変化を捉え、生産者と消費者が生活者として相互の理解の下で、協働で持続可能な社会・地域づくりへの参画をすすめます。

①パルシステムを含む生活協同組合6グループによる食料・農業・農村基本法改正に伴う運動として、基本法改正に向けた院内集会（3月19日）では、意見表明を行った小川保代表幹事をはじめとする生産者幹事・消費者幹事が参加し、合同学習会（10月11日）では、宮北輝幹事による報告と共に、多くの会員産地関係者のオンライン出席があり知見を深めました。

②2024年の公開確認会は、和郷園、JA いすみ、サン・ファーム、鳥越ネットワーク、JA つくば市谷田部産直部会、沃土会で開催され、各公開確認会の生産者監査人として、各品目別専門部会の生産者役員が出席し、生産者の視点から監査結果を伝えると共に、消費者幹事の出席もあり、消費者との相互理解において一役を担いました。



▲鳥越ネットワーク公開確認会

③第23回女性農業者交流会～「明日へつなぐ井戸端会議」千葉編～（11月7日-8日）では、広く農業に携わる関係者の参加を目的として交流会の名称を改めての開催となりました。今回は、村悟空（千葉県）が受け入れ19産地55名パルシステム関係者を含む総勢73名が参加し、「知ってほしいわたしたちのこと。教えてほしいみんなのこと。」をテーマに、生活者としての立場から様々な意見交換を行うと共に参加者間での交流が深められました。

(3) 目まぐるしく変化し続ける社会情勢への対応として、会員産地での産地ビジョンの検証と新たな産地ビジョンの策定を呼びかけます。

①鶏卵部会では、鳥インフルエンザ等によるエッグショックの再来や、産地の世代交代を踏まえて、10年後の目標・具体的なアクションプラン・進捗管理を含む部会ビジョンの作成について協議を行い、組合員との信頼関係の深化、持続可能な生産体制構築、パルシステムのたまごを「たまごと言えばパルだよね」と選ばれるブランドにすることを確認しました。

②第2回関西・以西ブロック若手生産者交流会（7月18日-19日）は、すすき牧場（福岡県）にて13産地38名パルシステム関係者を含む総勢47名の参加により開催しました。パルシステム連合会の渋澤温之専務理事より「～ともにいきる地域づくり～パルシステムの到達点とこれからの産直 次世代へ」として、産直と運動の歩み、パルシステム2030ビジョン、商品開発で実践する地域づくり、ビジョン具体化の重要性を示唆いただき、パネルディスカッションでは「世代を超えて、新たな担い手が描くこれからの農業」をテーマに意見交換が行われました。

2. 食の未来へつなげる取り組みをすすめます

(1) パルシステムの「もっといい明日へ超えてく」の取り組みと連動し、生産者と消費者の交流を通じて、食の大切さと農の魅力を幅広い世代へ伝え、食料自給率向上と次世代の担い手へつなげます。

①東北・北海道ブロック会議（6月18日-19日）は、「もっといい明日へ超えてく 震災からの復興、そしてこれから」をテーマに、福島県内会員産地・生協による実行委員会受け入れ、25産地53名、パルシステム関係者を含む総勢71名の参加により開催しました。開催テーマに沿って会員産地・生協関係者をパネリストに議論を深めました。視察では、次世代の担い手が活躍する旬彩ファームの耕作放棄地開墾、ジェイラップによる地域課題をビジネスに変換するそれぞれの挑戦を学びました。



▲耕作放棄地開墾後の圃場視察の様子

②米部会では、パルシステム連合会米穀課と連携し、生産者と配送現場に近い職員との学習交流の場としてお米で超えてく学習会を2企画開催し、パルシステムの産直米、お米を取りまく状況と今後、パルシステム連合会の「お米スイッチ」の取り組みについて共有し、意見交換を行いました。

(2) 持続可能な農業の構築に向けて、資源循環や耕畜連携、労働力問題、農業における温室効果ガス削減への対応と見える化、おいしさの向上などに取り組みます。

①果樹サミット（2月29日）は、ジョイファーム小田原（神奈川）の受け入れ、12産地35名パルシステム関係者等を含む50名が参加し開催され、「10年先の果樹産地の持続と発展に向けて」をテーマに意見交換が交わされた他、「そがやまみらいプラン」による市民参加の農業支援の取り組み、二酸化炭素削減の見える化などが報告されました。

②青年農業者交流会（9月11日-12日）は、23産地59名パルシステム関係者を含む総勢331名が参加し開催されました。1日目の全体会では、「これからの農業を中心とした地域の可能性について」をテーマに、株式会社NEWGREENの中條大希代表による講演が行われ、地方の経済成長の鍵として、観光・農業・人材についての取り組み、有機米事業拡大に伴う技術開発やサービス提供について知見を深めました。



▲中條代表による講演

- ③畜産部会では、畜種別のおいしさの見える化として会員産地の協力のもとで、2024年度は牛・豚の2検体の分析を行うと共に、部会参加者による食味会を開催するなど、美味しさの向上や生産物の理解を深める取り組みをすすめました。
- ④野菜部会では、引き続き青果の見える化の取り組みとして、会員産地の協力のもとで、トマト・ミニトマト・人参・ほうれん草について、合計43検体の分析をパルシステム連合会野菜課と共にすすめました。

(3) 耕畜連携を更に広げるため、畜産と国産飼料生産のつながりの見える化とモデル取り組みの実践をすすめ、消費者の理解も深めます。

- ①関東・中部ブロック会議（7月3日-4日）は「協創のネットワークによる持続可能な農畜産業と地域づくり」をテーマに、新潟県内会員産地、パルシステム新潟ときめきによる実行委員会が受け入れ、29産地72名、パルシステムグループを含む総勢99名の参加により開催しました。グループディスカッションでは、生産者と共に消費者幹事やパルシステム新潟ときめき組合員理事が参加し、商品の関係性や物語の見える化の必要性や、価格高騰の中で生産者と消費者との踏み込んだ話し合いができ、場づくりの重要性が提起されました。視察では、ナカショクミートフーズのフードリサイクル、肥料事業の取り組みをとおしての資源循環、耕畜連携について学び、JA新潟かがやきと行政、道の駅と共にすすめる地域連携について学びました。



▲道の駅あがの坂井駅長による取り組み報告

- ②2024年度第2回次世代リーダー研修（8月28日-29日）では、大牧農場（北海道）において飼料用子実コーン圃場を視察し国産飼料生産の課題と可能性について知見を深めました。
- ③第3回畜産部会（10月30日）では、消費者幹事を交えての意見交換を畜種別に行い、パルシステムが掲げる日本型畜産の推進や、生産と消費の双方が持続・発展できるための議論を深め、大牧農場の国産飼料生産の取り組みについて報告を交えて共有しました。

(4) 部会活動は多様な課題や農業技術の学習と共有を行い、生産者間での結束を深めます。

- ①米部会では有機米研修会（6月26日）はJA新みやぎ（宮城）にて11産地関係者・パルシステム関係者を含む総勢56名で開催し、産地・生産者間での交流を密に行い、昨年有機米サミットで掲げた有機米1,000t販売に向けて鋭気を養いました。また、お米で超えてくセンター向け学習会を会員生協2会場で開催し、会員生協役職員へ産地の状況や生産者の思いを直接伝えました。
- ②野菜部会では、第1回オーガニック技術交流会議を機に議論が深まり、有機生産者の取り組みや技術交流を栽培区分の垣根を超えて広く共有する有機野菜分科会を2025年に設立することを確認しました。第13回青果フォーラム（10月2日）は、42産地84名パルシステム関係者を含む総勢169名が参加し、エコ・チャレンジ基準見直しについての活発な意見交換が行われた他、パルシステムの関東近郊産直産地で組織する近郊産地部会による農法研究の共有化、青果の見える化（食味）についての取り組み報告を行いました。



▲第13回青果フォーラムの様子

③果樹部会では、果樹サミットの他、品目別3会議をパルシステム連合会の商務会議体と区分けするため、「みかん部会」「りんご部会」「山梨フルーツ部会」へ名称を変更し、農法検討会の開催や産地視察など、果樹の窮状のなかでの打開策につながる活動をすすめました。

④畜産部会では、おいしさの見える化、耕畜連携の取り組み共有の他、生産と消費の双方が持続・発展できるための議論や情報共有の機会として、産地の見える化、畜産学習会の強化、アニマルウェルフェアを軸に畜種別に活発な意見交換を行いました。

⑤鶏卵部会では、10年後にむけた部会ビジョン作成の他、パルシステム会員生協の配送センターの協力のもと、8センターにて14名の鶏卵生産者の同乗体験を実施するなど、学習会の開催提案など職員・組合員向けに積極的なアプローチを行いました。鳥インフルエンザによる影響が常態化する中で、部会産地間での協力体制が構築されています。

(5) 若年世代を中心とした研修により、会員産地・会員生協の未来を担う新たな人材育成を推進します。

①次世代リーダー研修は、第8期研修生29名、実行委員13名により開催しました。第1回研修（5月15日 - 16日）では大牧農場の五十川勝美会長を講師に、第2回研修での現地訪問と併せて、親子三代にわたる事業承継の秘訣、再生産可能な農産物価格の在り方、これからの生産者の集合体による農業法人経営、創成期の苦労を体験していない次世代が描くこれからの産直について意見交換を行いました。



▲大牧農場にて第8期次世代リーダー研修生

第3回研修（10月17日 - 18日）は、パルシステム山梨元理事長でワーカーズコープ・センター事業団の白川恵子相談役を講師に、人を通じて活動が広がる運動の原動力について伺いました。全4回の研修総括として「生産者と職員が共に学び、議論と交流を深めたこの場をパルシステムの中で広げることが重要」とまとめられました。

②パルシステム連合会が実施する供給担当新人研修（pal*system pride）に会員産地関係者の講師派遣を行い、パルシステム連合会産直事業本部と共にパルシステムの産直の取り組みを共有しました。

3. 生産者と消費者との相互理解を深めます

(1) 生産者・消費者・生協役職員の立場を超えた学習・交流を開催し、お互いの取り組みを理解し、支えあう関係づくりをすすめます。

①会員生協別交流会、次世代リーダー研修、青年農業者交流会、女性農業者交流会では生産者・組合員・生協役職員が交流を通じてお互いの取り組みや関係性を深めました。米部会では生協職員向けのお米で超えてく学習会、鶏卵部会および関東・中部ブロックでは、年間活動として会員生協配送センターでの同乗体験を実施しています。



▲会員生協別交流会 神奈川会場の様子

②産直連続講座は組合員向け学習会として29産地、計41回開催。産地関係者・組合員のべ3,461名の参加となり、会員産地の取り組みの共有と交流がすすめられました。

③消費者運営委員会フィールドワーク（5月31日）では、東海マルタモグラ堆肥センター（静岡）を視察し、製造工程の視察、微生物の働きに着目した土の力について学びました。野菜くらぶ（静岡）のトマトハウスでは、隔離床栽培、CO₂発生装置、LED照射など効率を重視した施設栽培など最新の農業技術を学び、野菜くらぶ静岡支社では、品質維持の取り組み、マルタとの協業などを確認しました。



▲東海マルタにて

(2) 会員産地の交流の実績と情報を可視化し、生産者・消費者・生協役職員による交流の機会の創出をすすめます。

センター研修は4回開催され、パルシステム山梨長野甲斐センター(8月23日)にオーリア21、野菜くらぶ、鹿児島くみあいチキンフーズが参加、パルシステムグループ新人供給担当職研修(9月24日)に富良野青果センターが参加し、それぞれ職員が産地の生産者と直接意見交換を行い、パルシステム産直に対する知見を深めました。また、パルシステム福島いわきセンターまつり(11月4日)に花兄園、パルシステム東京世田谷および池尻センターまつり(11月23日)にサン・ファームが参加し、両会場では自らの生産物の紹介を通じた役職員・組合員交流と共に、出展産地間交流やメーカーとの交流も行われ、有機的なつながりを築く場となりました。



▲いわきセンターまつりの様子

(3) 会員産地、会員生協の今を伝える取り組みを大切にすると共に、集合開催とオンライン開催の利点を踏まえ、多様な手法を活用した交流の研究とサポートを継続します。

①幹事会、生産者・消費者の各運営委員会、合同ブロック会議、専門部会においてはリアル開催を軸にオンラインの対応を行っています。特に産直連続講座は日頃見ることが出来ない畜産現場の中継や、参加の間口を広げ、多様な組合員参加に結び付けています。



▲産直連続講座イナゾーファーム(山梨長野)の様子

②2024年度についてもオンライン機材（レンタルWi-FiやiPad等）の無償貸し出しを継続し、会員産地と会員生協の交流のサポートを行いました。

4. パルシステム生産者・消費者協議会の活動を発展させます

(1) パルシステム生産者・消費者協議会活動をさらに飛躍させるため、組織の枠組みについて論議を継続します。

今後の持続可能な生消協活動にむけて、会議体のスリム化などの検討をすすめています。

(2) 「産直四原則」への理解と、その活動を分かち合う仲間を増やすため、生消協未会員産地への呼びかけをパルシステム産直事業本部と共に行います。

2024年度はパルシステム連合会産直事業本部と共に仲間づくりをすすめ、産直南島原（野菜・長崎）、ベジタブルワークス（野菜・北海道）、ジェイラップ（野菜・福島）、JA筑前あさくら（果樹・福岡）、株式会社ささかみ（菌茸・新潟）、旬彩ファーム（野菜・福島）の計6産地の加入に至りました。

(3) パルシステム生産者・消費者協議会の SNS 等での情報発信について研究を進めていきます。

①生消協公式 SNS (Facebook) による会員産地や生消協の取り組みの発信をすすめ、パルシステム公式 SNS (Facebook および X) との情報連携を行いました。

②生消協公式 HP は、生消協活動の発信のみならず、会員産地が発信する SNS 等の情報へのアクセス強化を目的に、第 1 期となるリニューアルを行いました。



▲生消協公式Facebookにて活動を発信しました

(4) パルシステム協力会との相互参画と交流により、地域づくりに向けた課題を共有し、新たな価値の創造と共創を目指します。

①4月1日および11月14日には、生消協・協力会役員および両会の事務局を交えた連携会議を実施し、今後の両会の連携の方向性について議論を深めました。

②生消協幹事合宿（7月10日 - 11日）は恩納村（沖縄）を訪れ、サンゴの白化現象により減少したサンゴ礁再生の取り組み、陸域での休耕地・耕作放棄地への蜜源木植栽による海への赤土流失防止と養蜂の取り組みなど、井ゲタ竹内と恩納村漁協の共創による地域連携の在り方について、知見を深めました。



▲蜜源木植栽地での視察の様子

以上

2024年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表
2024年 12月 31日 現在

(単位:円)

資産の部				負債及び剰余金の部			
普 通 預 金	25,349,396	未 払 金	1,910,755				
前 払 費 用	343,750	預 り 金	0				
未 収 金	0	仮 受 金	0				
立 替 金	0	前 受 金	0				
前 払 金	178,750	流 動 負 債 合 計	1,910,755				
流 動 資 産 合 計	25,871,896	負 債 合 計	1,910,755				
		前 期 繰 越 金	22,212,760				
		当 期 剰 余 金	1,748,381				
		剰 余 金 合 計	23,961,141				
資 産 合 計	25,871,896	負 債・剰 余 金 合 計	25,871,896				

損 益 計 算 書
自 2024年 1月 1日 至 2024年 12月 31日
(単位:円)

科 目	金 額
会 費 収 入	24,358,000
収 入 計	24,358,000
委 託 費	3,600,000
通 信 費	319,431
旅 費 交 通 費	1,938,821
幹 事 会 費	2,261,179
生 産 者 運 営 委 員 費	2,902,938
消 費 者 運 営 委 員 費	1,996,408
ブ ロ ッ ク 会 議 費	1,450,178
部 会 活 動 補 助 費	1,875,741
調 査 研 究 費	58,217
オ ン ラ イ ン 交 流 推 進 費	4,720
広 報 費	80,901
会 議 費	2,426,047
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	1,468,500
事 務 所 負 担 費	396,000
会 計 委 託 費	198,000
渉 外 費	218,712
ア ト ム ハ イ サ ー 経 費	248,885
消 耗 品 費	14,258
雑 費	153,230
予 備 費	1,000,000
支 出 計	22,612,166
事 業 剰 余 金	1,745,834
雑 収 入	2,547
当 期 剰 余 金	1,748,381
前 次 期 繰 越 金	22,212,760
	23,961,141

2024年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算実績比較表

自 2024年 1月 1日 至 2024年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目(補助科目)		当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収入	会 費 収 入 (生 産 者)	12,918,000	13,358,000	440,000	103.4%	
	会費収入(パルシステムグループ)	11,000,000	11,000,000	0	100.0%	
	合 計	23,918,000	24,358,000	440,000	101.8%	
支出	委 託 費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通 信 費	400,000	319,431	△ 80,569	79.9%	
	(カタログ発送費)	200,000	191,566	△ 8,434	95.8%	発送費、カタログデータ管理費
	(その他通信費)	200,000	127,865	△ 72,135	63.9%	電話代、宅配料等
	旅 費 交 通 費	2,700,000	1,938,821	△ 761,179	71.8%	
	(公 開 確 認 会 派 遣)	700,000	310,942	△ 389,058	44.4%	6会場へ監査人、5会場へ消費者幹事を派遣
	(産直連続講座交通費)	900,000	694,849	△ 205,151	77.2%	9生協41会場へ29産地の関係者を派遣
	(ブロック会議交通費)	700,000	592,830	△ 107,170	84.7%	2会場への他ブロック役員・代表幹事(代理含む)・消費者幹事を派遣 ※関西・以西は中止
	(そ の 他 派 遣 費 用)	400,000	340,200	△ 59,800	85.1%	会員生協総会・協力会総会等へ生産者幹事を派遣
	幹 事 会 費	3,400,000	2,261,179	△ 1,138,821	66.5%	
	(旅費交通費)	1,800,000	1,511,439	△ 288,561	84.0%	幹事会(2・4・11月)、その他幹事による会合等
	(活動補助費)	1,600,000	749,740	△ 850,260	46.9%	幹事会合宿費
	生 産 者 運 営 委 員 会 費	3,450,000	2,902,938	△ 547,062	84.1%	
	(旅費交通費)	1,500,000	1,355,882	△ 144,118	90.4%	生産者運営委員会(4・6・9・10月) ※1月は催事と同日開催
	(活動補助費)	300,000	159,563	△ 140,437	53.2%	産直連続講座補助費
	(リーダー研修補助)	900,000	1,095,659	195,659	121.7%	講師料、会場費、産地研修費等
	(センター研修補助)	750,000	291,834	△ 458,166	38.9%	会員生協事業所へ会員産地関係者を派遣
	消 費 者 運 営 委 員 会 費	2,200,000	1,996,408	△ 203,592	90.7%	
	(青年農業者交流会)	600,000	650,919	50,919	108.5%	講師料、会場費、会員生協交流会補助
	(女性生産者交流会)	600,000	627,229	27,229	104.5%	開催補助、実行委員会、消費者幹事派遣費
	(旅費交通費)	900,000	673,900	△ 226,100	74.9%	消費者運営委員会(年12回)、フィールドワーク
	(その他活動補助費)	100,000	44,360	△ 55,640	44.4%	フィールドワーク交流費等
	ブ ロ ッ ク 会 議 費	1,800,000	1,450,178	△ 349,822	80.6%	
	(関東・中部)	500,000	294,371	△ 205,629	58.9%	ブロック会議事前視察、実行委員会、役員会、配送センター同乗企画派遣費
	(東北・北海道)	500,000	359,293	△ 140,707	71.9%	ブロック会議事前視察、役員会、実行委員会
	(関西・以西)	800,000	796,514	△ 3,486	99.6%	ブロック会議、役員会、若手生産者交流会開催費
	(合同)	0	0	0	0.0%	会場費 ※2024年は東新宿本部開催のため未計上
	部 会 活 動 補 助 費	3,800,000	1,875,741	△ 1,924,259	49.4%	
	(米部会)	700,000	233,737	△ 466,263	33.4%	お米で超えてく学習会、有機米研修会、役員会
	(野菜部会)	1,000,000	608,190	△ 391,810	60.8%	青果の見える化分析費
	(果樹部会)	600,000	172,752	△ 427,248	28.8%	品目別3部会活動、果樹サミット、役員会
	(畜産部会)	1,000,000	494,626	△ 505,374	49.5%	おいしさの見える化分析費、学習会
	(鶏卵部会)	500,000	366,436	△ 133,564	73.3%	配送センター学習・同乗体験
	調 査 研 究 費	200,000	58,217	△ 141,783	29.1%	産直データブック、BMW技術協会会費
	オンライン交流推進費	100,000	4,720	△ 95,280	4.7%	レンタルWi-Fi等・オンライン機材貸し出し費
	広 報 費	200,000	80,901	△ 119,099	40.5%	第1回オーガニック技術交流会議での加入呼びかけ
	会 議 費	3,650,000	2,426,047	△ 1,223,953	66.5%	
	(総会費用)	2,000,000	1,786,852	△ 213,148	89.3%	会場費、講師料、会員生協別交流会補助
	(農法研究会)	650,000	639,195	△ 10,805	98.3%	講師料・会場費
	(協力会との交流)	1,000,000	0	△ 1,000,000	0.0%	連携検討会議をオンライン開催
	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	1,500,000	1,468,500	△ 31,500	97.9%	メンテナンス費、システム改修費(第1期)
	事 務 所 負 担 費	396,000	396,000	0	100.0%	半期毎の支払い
	会 計 委 託 費	198,000	198,000	0	100.0%	半期毎の支払い
	渉 外 費	350,000	218,712	△ 131,288	62.5%	慶弔関係費
	ア ド バ イ ザ ー 経 費	300,000	248,885	△ 51,115	83.0%	アドバイザー旅費
	消 耗 品 費	30,000	14,258	△ 15,742	47.5%	文具等
	雑 費	120,000	153,230	33,230	127.7%	振込手数料・ネットバンキング利用手数料
	予 備 費	1,600,000	1,000,000	△ 600,000	62.5%	記念誌製作費、自然災害対応予備費等※1
	合 計	29,994,000	22,612,166	△ 7,381,834	75.4%	
事 業 剰 余 金	△ 6,076,000	1,745,834	7,821,834	-28.7%		
雑 収 入	0	2,547	2,547	0.0%	預金利息	
剰 余 金	△ 6,076,000	1,748,381	7,824,381	-28.8%		
前 期 繰 越 金	17,015,715	22,212,760	0	130.5%		
次 期 繰 越 金	10,939,715	23,961,141	13,021,426	219.0%		

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 次期繰越金には、2020年度を起点とした年間500,000円の周年事業積立金(累計2,500,000円)を含みます。

2025 年 1 月 30 日

パルシステム生産者・消費者協議会

監事 薄 一郎

監事 村島 伊津子



監 査 報 告 書

次のように 2024 年度年間監査を行いましたので下記に報告いたします。

1. 監査日時

2025 年 1 月 30 日 (木) 16:20～17:15

2. 監査形式

パルシステム連合会東新宿本部 4 階第 7 会議室および
Zoom を使用したハイブリッド形式による監査

3. 監査立会人

パルシステム生産者・消費者協議会	代表幹事	小川 保
パルシステム連合会 管理本部経理部	経理 2 課課長	日野 道子
	経理 2 課	野矢 隆史
パルシステム生産者・消費者協議会	事務局	坂本 徹

4. 監査範囲及び方法

予算実績比較表、貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳の提出を求め、監査を行いました。

5. 監査意見

- (1) 会計収支は適正に処理されていることを認めます。
- (2) 未執行予算があることから、創意工夫による活動の活性化と共に、適正な予算執行が行われることを求めます。
- (3) 次期繰越金における周年事業積立金の見える化について検討を求めます。
- (4) 繰越金が増加していることから、次年度予算では計画的な活用を求めます。

以上

第2号議案

2025年度活動方針案並びに予算案承認の件

《2025年度活動方針案》

「～産直による地域づくりでもっといい明日へ超えてく！～」

1. 持続可能な農業生産を推進します

- (1) 気候変動、生産コストの高騰、農業従事者の減少など、生産現場の厳しい状況を、有機農業や新たな技術を活用しながら、課題解決に取り組みます。
- (2) 物価上昇の局面のなか、再生産可能な農業のあり方について、生産者と消費者で協議と理解をすすめ、食と農をとおした地域の活性化へつなげます。
- (3) 生産における地域資源を見直し、肥料・飼料問題等の課題に積極的に取り組み、食料自給率向上のために生産量増と循環の地域づくりに取り組みます。

2. 生産者と消費者との相互理解を深めます

- (1) 生産者・消費者・生協役職員の立場を超えた学習や交流をとおして、お互いの取り組みを理解し、協力し合う関係づくりをすすめます。
- (2) パルシステムの産直の価値を生産者・消費者で再認識し、生産と消費の好循環へつながる活動をすすめます。
- (3) 会員産地の交流の実績と情報を可視化し、情報発信を行いながら、生産者・消費者・生協役職員が参加しやすい交流の仕組みづくりに取り組みます。

3. パルシステム協力会との連携を進めます

- (1) 生消協・協力会の双方会員の抱える課題や強みを共有し、新たな価値の創造と相乗効果のある関係性を構築します。
- (2) 生消協・協力会の双方が行う研修会や学習会をとおして相互交流を図ります。
- (3) 協力会と共にパルシステムの価値を多くの組合員へ伝えます。

4. パルシステム生産者・消費者協議会の活動を発展させます

- (1) パルシステム生産者・消費者協議会活動をさらに飛躍させるため、組織の枠組みについて論議を継続します。
- (2) 「産直四原則」への理解と生消協の魅力を発信し、その活動に共感する仲間を増やすため、生消協未会員産地への呼びかけを行います。
- (3) 生消協の歴史、成り立ちを学び、それぞれの産地ビジョンに活かし、次世代へつなげます。
- (4) パルシステムと共に、食料・農業問題に向き合う他団体と連携し、持続可能な地域づくりのために社会へ提起します。

以上

パルシステム生産者・消費者協議会 2025年度予算案

(単位:円)

勘定科目(補助科目)		2025年度予算案	構成比	備考
収入	会 費 収 入 (生 産 者)	12,828,000	53.8%	
	会費収入(パルシステムグループ)	11,000,000	46.2%	
	合 計	23,828,000	100.0%	
支出	委 託 費	3,600,000	11.6%	事務局人件費
	通 信 費	400,000	1.3%	
	(カタログ発送費)	200,000		発送費、カタログデータ管理費
	(その他通信費)	200,000		回線使用料、宅配料等
	旅 費 交 通 費	3,100,000	10.0%	
	(公開確認会派遣)	800,000		5会場へ監査人を派遣※2
	(産直連続講座派遣)	900,000		会員生協へ部会会員産地関係者を派遣
	(ブロック会議派遣)	700,000		他ブロック役員・代表幹事・消費者幹事を派遣
	(その他派遣)	700,000		協力会催事へ部会会員産地関係者を派遣※2
	幹 事 会 費	2,900,000	9.4%	
	(旅費交通費)	1,800,000		幹事会旅費、会員総会等へ幹事を派遣
	(活動補助費)	1,100,000		講師料・幹事会合宿および新旧役員懇談会費等
	生 産 者 運 営 委 員 会 費	3,700,000	11.9%	
	(旅費交通費)	1,500,000		生産者運営委員会旅費
	(活動補助費)	450,000		講師料、産直連続講座・協力会催事出展補助※2
	(リーダー研修補助)	1,000,000		講師料、会場費、産地研修費、世代間交流会費※2
	(センター研修補助)	750,000		会員生協へ会員産地関係者を派遣、会員産地での生協職員研修費補助※2
	消 費 者 運 営 委 員 会 費	2,800,000	9.0%	
	(青年農業者交流会)	600,000		会場費、講師料、消費者幹事を派遣
	(女性農業者交流会)	600,000		講師料、会員生協別交流会補助
	(旅費交通費)	1,300,000		消費者運営委員会・研修・フィールドワーク旅費※2
	(その他活動補助費)	300,000		講師料、研修・フィールドワーク交流費※2
	ブ ロ ッ ク 会 議 費	2,100,000	6.8%	
	(関東・中部)	600,000		ブロック会議補助および実行委員会、役員会、配送同乗・学習企画派遣費※2
	(東北・北海道)	700,000		ブロック会議補助および事前視察、役員会、東北北海道ブロック学習会開催費※2
	(関西・以西)	800,000		ブロック会議補助、役員会、若手生産者交流会※2
	(合同)	0		合同ブロック会議の会場費等(25年度は東新宿本部開催のため未計上)
	部 会 活 動 補 助 費	3,500,000	11.3%	
	(米部会)	700,000		センター学習会、技術交流会、米産地交流会※2
	(野菜部会)	1,000,000		青果フォーラム、有機野菜分科会、役員会、近郊産地部会派遣、青果の見える化分析費※2
	(果樹部会)	600,000		品目別3部会活動、役員会、果樹サミット※2
	(畜産部会)	700,000		おいしさの見える化分析費、学習会※2
	(鶏卵部会)	500,000		配送センター学習・同乗体験※2
	調 査 研 究 費	100,000	0.3%	産直データブック、BMW技術協会会費
	オ ン ラ イ ン 交 流 費	50,000	0.2%	レンタルWi-Fi等・オンライン機材貸し出し費
	広 報 費	600,000	1.9%	加入説明費、リーフレット作成費※2
	会 議 費	3,800,000	12.3%	
	(総会費用)	2,000,000		会場費、講師料、会員生協別交流会補助
	(農法研究会)	800,000		講師料、会場費
	(協力会との交流)	1,000,000		連携会議、合同学習会・会議費、交流費※2
	ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	900,000	2.9%	メンテナンス費、HP改修費(第2期)※2
	事 務 所 負 担 費	396,000	1.3%	半期毎の支払い
	会 計 委 託 費	198,000	0.6%	半期毎の支払い
	渉 外 費	350,000	1.1%	慶弔関係費
	ア ド バ イ ザ ー 経 費	300,000	1.0%	アドバイザー旅費交通費
	消 耗 品 費	30,000	0.1%	文具等
	雑 費	150,000	0.5%	振込手数料・ネットバンキング利用手数料
	予 備 費	2,000,000	6.5%	記念誌検収・出版費、自然災害対応予備費等※1 ※2
	合 計	30,974,000	100.0%	
事 業 剩 余 金		△ 7,146,000	-23.1%	
雑 収 入				
剩 余 金		△ 7,146,000		
前 期 繰 越 金		23,961,141		
次 期 繰 越 金		16,815,141		※3

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 重点活動予算として2025年度は8,100,000円を各活動に配分しています。

※3 次期繰越金には、2020年度を起点とした年間500,000円の周年事業積立金(累計3,000,000円)を含みます。

第3号議案

役員改選の件

役員の改選期にともない、下記の通りの役員の承認をお願いします。

	選出枠	氏名	所属
生産者幹事	東北・北海道	五十川 賢治	大牧農場（北海道）
	東北・北海道	村上 洋巨	富良野青果センター（北海道）
	関東・中部	小川 保	JAつくば市谷田部産直部会（茨城県）
	関東・中部	毛利 嘉宏	野菜くらぶ（群馬県）
	関東・中部	坂入 清史	八千代産直（茨城県）
	関西・以西	王隠堂 正悟哉	大紀コープファーム（奈良県）
	関西・以西	西野 文敏	紀ノ川農業協同組合（和歌山県）
	米部会	高橋 直之	庄内協同ファーム（山形県）
	野菜部会	金谷 雅幸	サンドファーム旭（千葉県）
	果樹部会	鶴田 洋平	マルタ（熊本県）
	畜産部会	宮北 輝	ノーザンび〜ふ産直協議会（北海道）
	鶏卵部会	大須賀 裕	花兄園（宮城県）
	青年	山下 一樹	アップルファームさみず（長野県）
消費者幹事	東京	吉藤 友美	パルシステム東京
	神奈川	渡部 さと子	パルシステム神奈川
	千葉	中村 真紀	パルシステム千葉
	埼玉	長妻 さよ子	パルシステム埼玉
	茨城 栃木	細谷 時葉	パルシステム茨城 栃木
	山梨 長野	小谷 真弓	パルシステム山梨 長野
	群馬	柳井 由香里	パルシステム群馬
	福島	今田 君枝	パルシステム福島
	静岡	望月 静子	パルシステム静岡
	連合会	渋澤 温之	パルシステム連合会
	連合会	島田 朝彰	パルシステム連合会
	連合会	野津 秀男	パルシステム連合会
	パル・ミート	江川 淳	パル・ミート
監事	生産者	澤村 輝彦	肥後あゆみの会（熊本県）
	消費者	村島 伊津子	パルシステム東京

※会員生協の役員改選に伴う消費者幹事の変更がある場合は、組織規約第4条に従い変更する。

—資 料—

- 2024年度 主要活動日誌
- 幹事会活動状況
- 監事会活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 地域ブロック活動状況
- 専門部会活動状況
- 公開確認会活動状況
- 次世代リーダー研修活動状況
- センター研修活動状況
- その他育成企画活動状況
- 産直連続講座活動状況
- 生消協規約・規程

《2024年度 主要活動日誌》

月	日	会議・企画名	会場等
1月	8日	第1回消費者運営委員会	東新宿本部
	10日	第31回農法研究会 賀詞交歓会	ニッショーホール 品川プリンスホテル
	11日	合同ブロック会議 第1回生産者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド) 東新宿本部(ハイブリッド)
	18-19日	第2回オーガニック技術交流会議 ※連合会共催企画	1日目:マロウドインターナショナル成田 2日目:ちば風土の会
	29日	第2回消費者運営委員会	オンライン
2月	2日	第1回幹事会	東新宿本部(ハイブリッド)
	29日	果樹部会 果樹サミット	おだわら市民交流センター UMECO およびジョイファーム小田原
3月	4日	消費者運営委員会研修 消費者運営委員会(第3回)	パル・ミート習志野事業所 パル・ミート習志野事業所(ハイブリッド)
	6日	第35回通常総会	有楽町朝日ホール
	7日	会員生協別交流会	各会員生協会場
	11日	果樹部会 山梨フルーツ会議	オンライン
	14日	鶏卵部会たまご会議／コア・フードたまご会議	岩槻事務所(ハイブリッド)
	15日	米部会(第1回)	東新宿本部(ハイブリッド)
	19日	食料・農業・農村基本法改正に伴う意見交換会	衆議院第一議員会館(ハイブリッド)
4月	28日	畜産部会(第1回)	オンライン
	1日	第4回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	11日	第2回生産者運営委員会 第2回幹事会	東新宿本部(ハイブリッド) 東新宿本部(ハイブリッド)
	16日	果樹部会 りんご会議農法検討会	オンライン
5月	6日	第5回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	10日	果樹部会 みかん会議農法検討会	オンライン
	15-16日	次世代リーダー研修(第1回)	東新宿本部
	31日	消費者運営委員会フィールドワーク	マルタ・野菜くらぶ
6月	3日	第6回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	12日	生産者運営委員会(第3回)	東新宿本部(ハイブリッド)
	13日	鶏卵部会たまご会議／コア・フードたまご会議	東新宿本部(ハイブリッド)
	14日	畜産部会(第2回)	オンライン
	18-19日	東北・北海道ブロック会議	1日目:郡山商工会議所 2日目:旬彩ファーム・ジェイラップ
	26日	有機米研修会	JA新みやぎ
7月	1日	第7回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	3-4日	関東・中部ブロック会議	1日目:新潟ユニゾンプラザ 2日目:JA新潟かがやき・ナカショクミートフーズ
	10-11日	幹事合宿	恩納村漁協
	11-12日	果樹部会 みかん部会	肥後あゆみの会
	18-19日	第2回関西・以西ブロック若手生産者交流会	1日目:宗形ユリックス 2日目:すすき牧場
	31-1日	果樹部会 りんご部会	北信濃りんご会議
8月	5日	第8回消費者運営委員会	東新宿本部
	28-29日	次世代リーダー研修(第2回)	大牧農場
9月	2日	消費者運営委員会(第9回)	オンライン
	11-12日	青年農業者交流会	1日目:AP秋葉原 2日目:会員生協別会場
	13日	鶏卵部会たまご会議／コア・フードたまご会議	菜の花エッグ(ハイブリッド)
	19日	生産者運営委員会(第4回)	東新宿本部(ハイブリッド)
10月	2日	第13回青果フォーラム	東新宿本部(ハイブリッド)
	7日	消費者運営委員会(第10回)	東新宿本部(ハイブリッド)
	11日	食料・農業・農村基本法改正に伴う学習会	オンライン
	17-18日	次世代リーダー研修(第3回)	東新宿本部
	30日	畜産部会(第3回)	東新宿本部(ハイブリッド)
		生産者運営委員会(第5回)	東新宿本部(ハイブリッド)
	31日	消費者運営委員会(第11回) 生産者・消費者合同会議	1日目:AP東新宿 2日目:東新宿本部
11月	7-8日	第23回女性農業者交流会	1日目:犬吠埼ホテル 2日目:村悟空
	21日	幹事会(第3回)	東新宿本部(ハイブリッド)
	27-28日	次世代リーダー研修(第4回)	1日目:AP東新宿 2日目:東新宿本部
12月	2日	第12回消費者運営委員会	東新宿本部(ハイブリッド)
	4日	米部会(第2回)	花咲農園・オーリア21
	13日	鶏卵部会たまご会議／コア・フードたまご会議	東新宿本部(ハイブリッド)

《幹事会 活動状況》

月日	開催場所	議題
2月2日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・第35回通常総会議案承認の件 ・第35回通常総会の運営および議長と議事録署名人について ・2024年度年間活動スケジュールについて ・2024年4月以降のアドバイザー契約について ・2024年度次世代リーダー研修担当幹事について ・令和6年能登半島地震への対応について
4月11日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・令和6年能登半島地震義援金贈呈について ・食料・農業・農村基本法改正に伴う意見交換会について ・運営規程・会費規程・旅費規程・慶弔規程改定 ・協力会との今後の連携について ・2024年度幹事会合宿について ・女性生産者交流会の名称変更について ・2024年度催事等担当役員派遣について
7月10-11日	恩納村漁協(沖縄)	【1日目】 ・視察(サンゴハウス、海ぶどう養殖施設視察) ・学習会(恩納村漁協の取り組み) 【2日目】 ・視察(サンゴ養殖場、蜜源木植栽地視察) ・学習会(恩納村のローカル認証と知産知消、陸域での取り組み)
11月21日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2025 年1～3 月の催事について ・2025 年度活動方針(第1次案) ・2025 年度活動スケジュール(第1次案) ・2024 年度中間監査報告 ・2024 年度予算見通しと2025 年度予算(第1次案)

《監事会 活動状況》

開催日	開催場所	議題
9月30日	オンライン	2024年1月1日～ 6月30日までの半期決算監査
25年1月30日	東新宿本部(ハイブリッド)	2024年1月1日～12月31日までの年間決算監査

《生産者運営委員会 活動状況》

月日	開催場所	議題
1月11日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2024年度方針(第2次案) ・2024年度予算(第2次案) ・2024年度活動検討(部会・ブロック活動計画含む) ・生消協規約規程改定
4月11日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・エコ・チャレンジ見直し検討について ・2024年度催事等派遣役員選出 ・パルシステム食料・農業政策の見直しに向けたアンケート ・生消協規約・規程改定 ・産直委員会および各担当役員報告
6月12日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・エコ・チャレンジ基準農産物改定検討会報告 ・産直委員会および各担当役員報告 ・女性生産者交流会の名称変更について ・2025年度農法研究会実施案検討
9月19日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・エコ・チャレンジ基準農産物改定検討会報告 ・産直委員会および各担当役員報告 ・2025年度農法研究会検討 ・生産者運営委員会集中討議
10月31日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・2025年度年始3催事の動員について ・2025年3月総会・会員生協別交流会の動員について ・2025年度予算案協議 ・産直委員会および各担当役員報告 ・エコ・チャレンジ基準農産物改定検討会報告

《消費者運営委員会 活動状況》

月日	開催場所	議題
1月8日	東新宿本部	・2024 年度活動方針<第2次案意見集約・共有・検討> ・2024 年度消費者運営委員会活動および予算案
1月29日	オンライン	・2024 年度活動方針(最終案) ・2023 年度女性生産者交流会振り返りと名称について ・2024 年度消費者運営委員会活動および予算案 ・規約・規程改定(最終案)
3月4日	パル・ミート習志野事業所 (ハイブリッド)	・女性生産者交流会実行委員会について ・全国産直研究交流会・水産産地交流会・果樹サミット報告 ・2024年度フィールドワークについて
4月1日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・通常総会振り返りと会員生協別交流会報告 ・地域ブロック会議派遣幹事選出 ・女性生産者交流会実行委員会および開催日程について 【大津アドバイザー学習会】「利用につながる活動とは」
5月6日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・催事等派遣幹事選出 ・女性生産者交流会について ・今後の有機農業について 【フィールドワーク事前学習会】「野菜くらの取り組みについて」
5月31日	マルタおよび野菜くらの(静岡)	【株式会社東海マルタ】・自主制作映画『根の国』視聴 ・堆肥製造工程視察 【野菜くらの静岡】・トマト圃場視察 ・野菜くらの静岡支社視察
6月3日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・次世代リーダー研修・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 ・女性生産者交流会について ・今後の消費者運営委員会での取り組みについて ・催事等派遣役員選出
7月1日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・畜産部会・東北北海道ブロック会議・生産者運営委員会報告 ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 【澤村幹事学習会・意見交換会】肥後あゆみの会の取り組みと有機について
8月5日	東新宿本部	・関東・中部ブロック会議・第2 回関西・以西ブロック若手生産者交流会報告 ・JA いすみ、サン・ファーム公開確認会報告 ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 ・今後の消費者運営委員会での取り組みについて ・公開確認会派遣幹事選出
9月2日	オンライン	・近郊産地部会報告 ・青年農業者交流会共有 ・公開確認会派遣幹事選出
10月7日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・青年農業者交流会・青果フォーラム報告 ・沃土会、JAつくば市谷田部公開確認会報告 ・2025年第36回生消協総会及び会員生協別交流会について ・女性農業者交流会について ・澤村幹事の学習会を受けての意見交換 ・2025年度視察・産地見学について
10月31日	東新宿本部	・次世代リーダー研修・畜産部会・鳥越ネットワーク公開確認会報告 ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会報告 ・パルシステム食料・農業政策見直しについて
12月2日	東新宿本部 (ハイブリッド)	・女性農業者交流会の振り返りと次年度開催に向けて ・幹事会運営についての意見交換 ・2025 年度方針(第1次案)および消費者運営委員会活動(第1次案) ・エコ・チャレンジ農産物基準改定検討会・次世代リーダー研修報告

《地域ブロック 活動状況》

開催日	地域ブロック(開催会場)	概要
7月3日-4日	関東・中部 (新潟ユニゾンプラザ)	【1日目】・新潟県内会員産地報告 ・事例報告【阿賀野市における地域連携によるオーガニックビレッジ宣言の取り組み】 ・グループディスカッション 【2日目】・視察:JA新潟かがやき、ナカショクミートフーズ、道の駅あがの
6月18日-19日	東北・北海道 (郡山商工会議所)	【1日目】・パネルディスカッション 「もっといい明日へ超えてく 震災からの復興、そしてこれから」 ・視察産地の概要と取り組み報告資料 ・グループディスカッション 【2日目】・視察:旬彩ファーム、ジェイラップ
9月3日-4日	関西・以西 (内子自治センター)	台風のため中止

《専門部会 活動状況》

(米部会)

開催日	催事名・開催場所	議題
3月15日	第1回米部会 (東新宿本部・ハイブリッド)	・産地プレゼンテーション JA 秋田ふるさと 営農経済部 米穀課 課長補佐 高橋 耕平様 ・生消協総会報告 ・2024 年度活動について
6月26日	有機米研修会 (JA新みやぎ)	・JA新みやぎ取り組み報告 ・視察:①伸萌地区(西澤様圃場)、② 通木地区(佐々木様圃場)
7月12日	「お米で超えてく」米学習会 (パルひろば千葉☆おたかの森)	参加者【ちば緑耕舎】杉田様 吉植様 【パルシステム千葉】供給長を中心に11名 ※別途、米部会事務局1名参加 内容:連合会報告、ちば緑耕舎の取り組み、パルシステム千葉交流企画共有、質疑
8月6日-7日	「お米で超えてく」米学習会 (パルシステム静岡袋井センター)	参加者【JA新潟かがやき】青木 等 様 【パルシステム静岡】供給担当職員 内容:【1日目】・予約登録米キャンペーン表彰式、おにぎり交流会、産地学習会 【2日目】・配送車両同乗
12月4日	第2回米部会 (大淵村温泉保養センター)	・次期部会役員選出 ・産地プレゼンテーション 花咲農園 代表 戸澤様、取締役 堀様 オーリア21 代表 工藤様 ・2024 年度活動の振り返りと2025年度活動の検討

(野菜部会)

開催日	開催場所	議題
10月2日	【青果フォーラム】 (東新宿本部・ハイブリッド)	・エコ・チャレンジ農産物基準改定 ・近郊産地部会2024年度取り組み報告 ・農法検討に関する技術交流 ・野菜部会 2024年度青果の見える化中間報告

(果樹部会)

開催日	開催場所	議題
2月29日	【果樹サミット】 (おだわら市民交流センター UMEKO)	「小田原市の果樹振興について」小田原市経済部農政課 立堀 様 「ジョイファーム小田原これまでとこれから」ジョイファーム小田原 取締役 長谷川 様 「そがやまみらいプラン活動報告」そがやまみらいプラン事務局長 齋藤 様 「農業技術センター概要と傾斜柑橘園のドローン薬剤防除」農業技術センター 池田様 ※その他、品目ごとの活動および果樹ミーティングを開催

(畜産部会)

開催日	開催場所	議題
3月28日	オンライン	・2024年度 活動方針 ・畜産生産に関する今後の課題について ・アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針について
6月14日	オンライン	・畜産生産者向け学習会「産地の見える化」牛肉産地、豚肉産地、鶏肉産地 ・グループワーク ・畜産学習会(組合員向け)の活動報告(生産者より)
10月30日	東新宿本部(ハイブリッド)	・「産地の見える化」産地報告 ・グループ内意見交換(アニマルウェルフェア等) ・大牧農場による飼料用子実コーン生産の取り組みについて ・「おいしさの見える化」検査結果報告および試食会

(鶏卵部会)

開催日	開催場所	議題
3月14日	オンライン	・生産選別基準変更について
6月13日	東新宿本部(ハイブリッド)	・産地報告、課題の提起 ・鶏卵生産者の同乗体験、及びセンター学習会について ・2024年度今後の鶏卵部会について(グループワーク)
9月12日	菜の花エッグ事務所(ハイブリッド)	・各産地報告 ・卵生産者の同乗体験、及びセンター学習会、エプロンの作成について ・産地実態確認について
12月8日	東新宿本部(ハイブリッド)	・鶏卵部会ビジョンについて ・ワクモ対策について

《公開確認会 活動状況》

開催日	開催地	開催産地(略称)	監査品目	主催生協	派遣役員(監査人)
2月22日	千葉	和郷園	エコ・ほうれん草	パルシステム千葉	塙 正樹(野菜部会長)
7月6日-7日	千葉	JAいすみ	有機千葉こしひかり	パルシステム東京	金谷 武志(米部会長)
7月16日-17日	長野	サン・ファーム	エコ・りんご(ふじ)	パルシステム山梨 長野	長谷川 壮也(果樹部会副部会長)
10月28日-29日	福岡	鳥越ネットワーク	有機セロリ	パルシステム神奈川	佐藤 大輔(野菜部会副部会長)
12月5日	茨城	JAつくば市谷田部産直部会	エコ・白菜	パルシステム茨城 栃木	金谷 雅幸(野菜部会選出幹事)
12月12日	埼玉	沃土会	エコ・ブロッコリー	パルシステム埼玉	塙 正樹(野菜部会長)

《次世代リーダー研修 活動状況》

開催日	開催場所	内容
5月15日-16日	第1回 (東新宿本部)	【1日目】・講演①「パルシステムの産直と交流」 パルシステム連合会 産直事業本部 副本部長 工藤友明 様 ・講演②「パルシステムとの産直・交流の歩みとこれから」 有限会社 大牧農場 会長 五十川勝美 様 ・グループディスカッション(参加産地・生協の課題共有) 【2日目】・グループディスカッション(研修目標・第2回研修について)
8月28日-29日	第2回 (大牧農場)	【1日目】・講義①いただきますカンパニーの概要と地域農業者との関わり 株式会社いただきますカンパニー 白木由美 様 ・講義②大牧農場の概要と地域の歴史や機械化について 有限会社 大牧農場 取締役 五十川賢治 様 ・視察:飼料用子実コーン栽培圃場・たい肥施設等 【2日目】・視察:じゃがいも・小豆圃場・イソカワファーム農機具倉庫 ・講義③イソカワファーム3世代の事業承継について 有限会社 大牧農場 会長 五十川勝美 様 有限会社 大牧農場 取締役 五十川賢治 様
10月17日-18日	第3回 (東新宿本部)	【1日目】・トークセッション 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団相談役 白川恵子 様 パルシステム連合会 産直事業本部 副本部長 工藤友明 様 【2日目】・グループディスカッション(研修の振り返り・意見交換)
11月27日-28日	第4回 (AP東新宿・東新宿本部)	【1日目】・講義およびグループディスカッション 『パルに關わって「うれしたのしい」ことって何?を「言葉化」する』 パルシステムリレーションズ 南波英希様、藤井将様、左海様 【2日目】・グループディスカッションおよび研修総括 「産地・生協の魅力と産直の関係性を次世代に継承するために私たちが伝える事」

《センター研修 活動状況》

開催日	開催場所	内容
8月23日	パルシステム山梨長野 甲斐センター	参加者:【野菜くらぶ】毛利 嘉宏 様 【鹿児島くみあいチキンフーズ】 小濱竜二 様、小田代正志 様、森琢人 様、井上幸子 様 【オーリア21】金子拓 様 【パル・ミート】小林保 様 【パルシステム山梨長野】職員28名 内容・産地プレゼン・交流・試食
9月24日	パルシステム連合会 (ハイブリッド)	参加者:【富良野青果センター】岸本和則 様 【パルシステムグループ】職員23名 内容・パルシステムの産直について・産地紹介・試食
11月4日	パルシステム福島 いわきセンター	参加者:【花兄園】大須賀裕 様 【パルシステム福島】組合員・役職員約400名 内容・産直たまごの商品説明・試食・交流
11月23日	パルシステム東京 世田谷センター	参加者:【サン・ファーム】下川英紀 様 【パルシステム東京】役職員および組合員463名 内容・商品説明・販売・試食・交流

《その他育成企画 活動状況》

開催日	企画・開催場所	内容
7月18日-19日	第2回関西・以西ブロック 若手生産者交流会 (宗像ユリックス・すすき牧場)	【1日目】・講演「ともに生きる地域づくり パルシステムの到達点とこれからの産直次世代へ」 パルシステム連合会 代表理事 専務理事 渋谷温之 様 ・パネルディスカッション 「世代を超えて、新たな担い手が描くこれからの農業」 【2日目】・視察 すずき牧場

《産直連続講座 活動状況》

開催日	会員生協	開催産地(略称)	講義内容	参加人数
1月24日	千葉	真南風	圃場や地域の中継、現地のレシピ・常備菜紹介	20
1月25日	茨城栃木	エコーたまつくり	有機農産物と特別栽培農産物、れんこんについて、質疑応答、昼食交流	25
1月26日	埼玉	庄内協同ファーム	産地概要の説明、質疑応答、実演・調理	30
2月9日	群馬	さかもとふる一つ	産地紹介、質疑応答、みかん試食・皮の活用法・動画配信、交流	20
2月29日	埼玉	無茶々園	柑橘栽培・海産物の取り組み、2030年に向けて、試食・試飲、クイズ	57
3月19日	神奈川	中山食茸	菌床の展示、産地紹介、きのこ料理の試食、質疑応答	18
4月25日	茨城栃木	北浦軍鶏農場	生産方法やこだわりについて、地鶏しゃものレシピ調理・昼食交流	20
5月22日	茨城栃木	北浦軍鶏農場	生産方法やこだわりについて、地鶏しゃものレシピ調理・昼食交流	29
7月4日	千葉	無茶々園	地域環境を守り育てる取り組み、柑橘試食・試飲(6種飲み比べ)	28
7月11日	福島	野菜くらぶ	産地紹介、お料理セット・糖しぼり大根試食、質疑応答	26
7月13日	東京	真南風	産地紹介、サンゴを守ると取り組み、圃場中継、質疑応答	32
7月17日	福島	うもれ木の会	圃場見学、昼食交流、産地紹介、質疑応答	26
7月19日	埼玉	AIC	産地紹介、質疑応答、試食交流、商品臨時登録受付説明	40
9月10日	山梨長野	無茶々園	産地紹介、みかん畑中継、試食交流、感想発表、記念撮影	17
9月20日	埼玉	やさか共同農場	産地紹介、質疑応答、試食・交流、記念撮影	41
9月21日	東京	サン・ファーム	産地紹介、台風19号の被災直後と現在、りんご3種の試食、質疑応答	25
9月25日	千葉	寺島農場	産地紹介、質疑応答、若芽ひじきメニュー4品の昼食交流	40
9月27日	茨城栃木	首都圏とんトン協議会	枝肉切分実演、産地紹介、産直豚説明、質疑、昼食交流	37
10月3日	群馬	佐藤農場	産地紹介、有機レモンの学習、圃場中継、試食交流	36
10月10日	山梨長野	ポークランド	「日本のこめ豚」について、豚舎中継、「日本のこめ豚」試食	30
10月15日	神奈川	ジョイファーム小田原	産地紹介、加工品試食、質疑応答、レシピ紹介	42
10月16日	山梨長野	イナゾーファーム	産地紹介、質疑応答・記念撮影、調理・試食・交流、感想発表	19
10月18日	茨城栃木	サン・ファーム	産地紹介、台風被害とその後の取り組み、質疑応答、昼食交流	39
10月24日	茨城栃木	沃土会	産地紹介、質疑応答、昼食交流	28
10月26日	東京	JA津軽みらい	産地紹介、「はれわたり」と「つがるロマン」の比較、質疑応答	24
10月29日	茨城栃木	北浦軍鶏農場	産直鶏について、産地紹介、調理、昼食交流	25
11月2日	東京	JAやさと	鳥インフルエンザと小動物侵入対策、国産飼料化への挑戦、質疑応答	23
11月5日	埼玉	JA新みやぎ	産地紹介、質疑応答、お米の食べ比べ 試食・交流	34
11月14日	山梨長野	JAやさと	産直たまご学習会、たまごランチ調理・試食・交流	24
11月16日	神奈川	鳥越ネットワーク	商品展示会での試食・販売、公開確認会の取り組み紹介	2312
11月20日	千葉	首都圏とんトン協議会	産直豚学習会、手切り肉実演、調理実習、試食交流	29
11月26日	茨城栃木	ポークランド	こめ豚プレゼン、調理のコツ紹介、調理・試食交流、質疑応答	29
11月28日	静岡	ポークランド	パル・ミート紹介、超えムービー視聴、産地紹介、豚舎中継、質疑応答	32
11月29日	埼玉	首都圏とんトン協議会	ブロック肉の解体実演、産直豚学習、産地紹介、試食交流	26
11月30日	東京	ナカショクミートフーズ	産地紹介、豚肉の試食、質疑応答	34
12月6日	埼玉	うもれ木の会	産地紹介、梨の品種について、産地の現状と課題	24
12月12日	千葉	謙信の郷	産地紹介、お米の食べ比べ、	18
12月12日	群馬	JAつくば市谷田部	ブロッコリーの学習、調理実習(洗い方・下ごしらえ実演含)、試食交流	27
12月21日	神奈川	富良野青果センター	エコ・じゃがいも説明、じゃがいも食べ比べ、産地カード・規格外品展示	24
12月25日	福島	JA新潟かがやき	しめ飾りづくり、昼食交流、ささかみの歴史とパルシステムのつながり	25
12月26日	茨城栃木	トキワ養鶏	たまご学習、黄身の色比べ、バッククッキングオムレツ等の調理実習	26
合計参加人数				3461

※会員生協の開催報告書をもとに事務局にて一部加筆・修正いたしました。

パルシステム生産者・消費者協議会

組 織 規 約

1990 年設立総会 制定
2001 年第 12 回総会 一部改訂
2006 年第 17 回総会 一部改訂
2007 年第 18 回総会 一部改訂
2011 年第 22 回総会 一部改訂
2013 年第 24 回総会 一部改訂
2021 年第 32 回総会 一部改訂
2024 年第 35 回総会 一部改訂

(名称)

第 1 条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第 2 条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第 3 条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株) パル・ミートをもって構成する。

2. 農畜産物生産者以外の生産団体は賛助会員となることができる。この場合、総会での議決権を有しない。
3. この会の加入、退会は幹事会が承認する。
4. 以下の者は会員資格を喪失する。
 - (1) 会費の未払。
 - (2) この会の活動を妨げ又は著しく信用を失わせる行為をした者。
 - (3) パルシステム連合会と直接又は間接的取引の無くなった者。

(役員)

第 4 条 この会は、その運営及び監査のため、幹事及び監事若干名をおく。この内容は以下のとおりとする。

(1) 幹事

- ① 生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。
- ② 生産者幹事は各ブロック、各専門部会より選出する。
- ③ 消費者幹事は会員生協及びパルシステムの推薦により選出する。
- ④ 選出された幹事は総会で選任する。
- ⑤ 任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- ⑥ 役員の定数については年度ごとに幹事会で定める。
- ⑦ 消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。

(2) 監事

- ① 生産者 1 名・消費者 1 名とする。
 - ② 毎運営年度 2 回以上、会の財産及び幹事の運営執行状況を監査しなければならない。
2. この会はアドバイザーをおくことができる。アドバイザーについては、別途「アドバイザー規程」に定める。

(会費)

第 5 条 会費については別途「会費規程」に定める。

2. 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第 6 条 運営については、別途「運営規程」に定める。

- 2 運営年度は、1 月 1 日より 12 月 31 日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第 7 条 所在地及び事務局は、パルシステム生活協同組合連合会内におく。

(改廃)

第 8 条 この規約の改廃は、総会の決議によらなければならない。

運 営 規 程

2013 年第 24 回総会 一部改定

2024 年第 2 回幹事会 一部改定

(総則)

第 1 条 パルシステム生産者・消費者協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第 2 条 生消協会員は、平等の権利を有し 1 会員 1 名の議決権は総会において保証され、総会は代表幹事が招集する。

2. 総会は委任状を含め過半数の出席をもって成立する。

(幹事会)

第 3 条 この会は次の内容で開催する。

- (1) 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
- (2) 幹事会は生産者から代表幹事 1 名、消費者から副代表幹事 1 名を互選する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事 1 名をおくことができる。
- (3) 幹事会は代表幹事が召集する。
- (4) 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
- (5) 原則として年 4 回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第 4 条 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会をおく。

2. 監事は、代表監事 1 名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第 5 条 生産者運営委員会は、生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理を行うことを目的とする。

2. 生産者幹事、副ブロック長、部会長および副部会長をもって組織する。
3. この会は委員長 1 名を互選する。
4. 招集は委員長が行い、年 3 回以上委員会を開催する。
5. 委員長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(地域ブロック)

第 6 条 地域ブロックは、生産者同士の地域的つながりの強化と連帯を図り、生産者同士の意見交流、情報交換を行い、生産向上に生かすことを目的とする。

2. 地域ブロックは、東北・北海道、関東・中部、関西・以西の 3 ブロックとする。
3. ブロック長 1 名、副ブロック長 2 名をブロック会議で選任する。但し他ブロックとの兼任はできない。
4. ブロック会議の招集はブロック長が行い、年 2 回以上ブロック会議を開催する。
5. ブロック役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(専門部会)

第 7 条 専門部会は米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の 5 つとし、それぞれの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行うことを目的とする。

2. 各部会、年 2 回以上の部会を開催する。
3. 各部会は、部会長 1 名、副部会長 1 名を互選する。但し他部会との兼任はできない。
4. 副部会長を 2 名以上おく場合は幹事会の承認を得るものとする。
5. 部会長、副部会長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(その他会議体)

第 8 条 必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

第 9 条 消費者運営委員会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協全体に反映させるためのまとめ役を行うことを目的とする。

2. 消費者幹事をもって組織する。
3. 招集は委員長が行い、月 1 回の開催を基本とし、その決定は年度ごとに行う。
4. 副代表幹事は委員長を兼ねることとする。

(事務局)

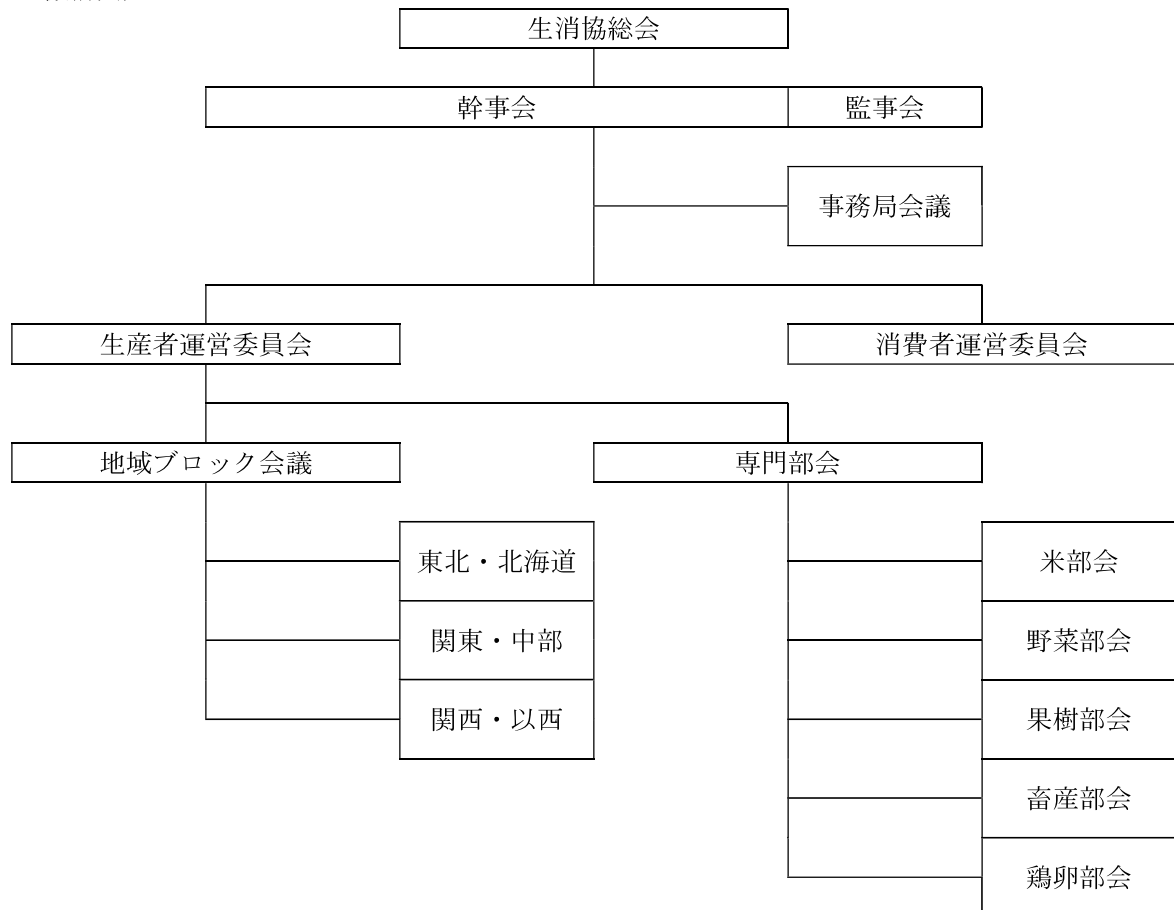
第 10 条 生消協の運営を円滑に進めるために代表幹事の下に事務局をおく。

2. 事務局は各種企画を、その都度実行委員会を組織してこれにあたることできる。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名する。

(改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

(別紙：機構図)



会 費 規 程

2024 年第 2 回幹事会 一部改定

(会費算定)

第 1 条 会費の算定は、以下の通りとする。

(1) 生産者団体

- ① 生産者会費は最低会費を 1 万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
- ② 年間取引高がわかりにくい場合は産地と協議の上決定する。
- ③ 賛助会員の会費は、別途協議する。
- ④ 取引高に応じた会費は以下を基準とする。

年間取引高	会費額
1 0 億円超	2 5 0, 0 0 0 円
5 億円超	2 0 0, 0 0 0 円
3 億円超	1 5 0, 0 0 0 円
1 億円超	1 0 0, 0 0 0 円
7 千万円超	7 0, 0 0 0 円
5 千万円超	5 0, 0 0 0 円
3 千万円超	3 0, 0 0 0 円
1 千万円超	2 0, 0 0 0 円
1 千万円以下	1 0, 0 0 0 円

(2) 消費者団体

- ① 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により幹事会で確定する。
- ② 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
 - (a) 生消協当該年度予算の概ね半額を目安とする。
 - (b) 会員生協の総額、連合会、(株)パル・ミートの会費については幹事会で決める。
 - (c) 会員生協の会費は、パルシステム（無店舗事業に限定）の当該年度の 3 月末登録組合員の数値（Web サーバーから抽出）を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第 2 条 会費の払込は、以下の通りとする。

- (1) 生産者団体の会費は、前年度の 12 月末までに各団体へ請求書を発行し、当該年度 1 月末日までに収めるものとする。
- (2) 消費者団体の会費は、当該年度の 4 月 15 日までに各団体へ請求書を発行し、4 月末日までに収めるものとする。

(改廃)

第 3 条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会

旅 費 規 程

2020 年第 1 回幹事会 一部改定

2024 年第 2 回幹事会 一部改定

(役員旅費支給)

第 1 条 幹事会、生産者運営委員会、消費者運営委員会、他地域ブロック会議、会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規程の定めによる。

2. 通常総会、自地域ブロック会議、催事(賀詞交歓会、青果フォーラム、農法研究会、部会主催の会合など)については支給しない。

(支給額算出根拠)

第 2 条 交通費は、原則として領収書等によって確認される次の金額を支給する。但し、領収書等による確認が困難な場合は、公共交通機関の料金及び別に定める基準によって支給する。

(1) 自動車等の燃料代及び有料道路使用料金、駐車料金等

(2) 鉄道・バス等の乗車運賃及び特急・指定席料金

(3) 航空賃のエコノミークラス料金

(4) タクシー乗車賃

(5) レンタカー利用代金

2. 単独の会議(午前中のみ、又は、午後のみ)などで前泊・後泊での参加の際、算定期間は 1 泊 2 日とし、交通費・宿泊費補助の上限を 7 万円とする。但し、2 日間連続しての会議参加の場合はこの限りではない。

3. 宿泊が必要となった会議への参加の場合は可能な限り出張パック等を利用する。

4. 当協議会活動と他業務と並行する場合、交通費・宿泊費総額の半額を支給する。

(支給方法)

第 3 条 所定の旅費請求書を用い、会合開催日から 1 ヶ月以内に事務局へ請求する。事務局は、内容確認の上、毎月 5 日到着分までを、会合開催日の翌月末に支給する。

(改廃)

第 4 条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会

慶 弔 規 程

2024 年第 2 回幹事会 一部改定

(総則)

第 1 条 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規程による。金額などの裁定は代表幹事が決定する。

2 その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。

(改廃)

第 2 条 この規程の改廃は、幹事会が行う。

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

東北・北海道ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク
2	会津よつば農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合
4	株式会社イナゾーフาร์ม
5	うもれ木の会
6	株式会社エプロン
7	有限会社大牧農場
8	大潟村産直会オーリア21
9	雄勝りんご生産同志会
10	奥中山高原農協乳業株式会社
11	音更町農業協同組合
12	株式会社花兄園
13	かづの農業協同組合
14	北いぶき農業協同組合
15	クロダファームグループ
16	有限会社ゴールド農園
17	小清水町農業協同組合・健土塾
18	こまち農業協同組合
19	株式会社ジェイラップ
20	士別市多寄有機農業研究会
21	農事組合法人土別農園
22	有限会社旬彩ファーム
23	農事組合法人庄内協同ファーム
24	庄内たがわ農業協同組合
25	新みやぎ農業協同組合
26	津軽みらい農業協同組合
27	合同会社天童果実同志会
28	常盤村養鶏農業協同組合/農事組合法人八峰園
29	ノーザンビーふ産直協議会
30	有限会社花咲農園
31	花巻農業協同組合
32	ふくしま未来農業協同組合
33	有限会社富良野青果センター
34	ベジタブルワークス株式会社
35	ポーランドグループ
36	までっこチキン生産者連絡協議会
37	株式会社丸公
38	みちのく野菜倶楽部
39	山形おきたま農業協同組合
40	山形コープ豚産直協議会
41	株式会社米沢郷牧場

関東・中部ブロック	
42	青木農園
43	株式会社アグリイノベーションズカンパニー
44	あじたま販売株式会社
45	有限会社アップルファームさみず
46	有倉きのこ園
47	アルプス農業協同組合
48	五十嵐菌茸株式会社
49	有限会社伊豆鶏業
50	いすみ農業協同組合
51	農事組合法人エコータまつくり
52	えちご上越農業協同組合

関東・中部ブロック	
53	えちご中越農業協同組合
54	遠州中央農業協同組合
55	有限会社小川和男養鶏場
56	株式会社オルター・トレード・ジャパン
57	有限会社おひさまばかばか
58	勝沼平有機果実組合
59	神奈川中央養鶏農業協同組合
60	金沢市農業協同組合
61	かなもと青果株式会社
62	有限会社北浦軍鶏農場
63	峡南鶏友会
64	有限会社ギルド
65	農事組合法人グットファーム
66	久望農園
67	くらぶち草の会
68	有限会社黒富士農場
69	ビーエム自然塾 有限会社謙信の郷
70	農事組合法人埼玉県産直協同
71	佐久浅間農業協同組合
72	佐久ゆうきの会
73	株式会社ささかみ
74	佐渡農業協同組合
75	農事組合法人佐原農産物供給センター
76	産直いばらき うまがっぺ牛乳協議会
77	有限会社サンドファーム旭
78	サン・ファーム
79	三里塚農法の会
80	澁谷養鶏農場
81	株式会社 ジェイエイしみずサービス
82	首都圏とんとン協議会
83	有限会社ジョイファーム小田原
84	常総センター
85	常総ひかり農業協同組合産直研究会
86	特定非営利活動法人食農ネットささかみ
87	有限会社匠瑤ジービーセンター
88	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
89	農事組合法人村悟空
90	株式会社第一清瀬出荷組合
91	株式会社ちば風土の会
92	ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
93	有限会社ちば緑耕舎
94	つくば市谷田部農業協同組合産直部会
95	有限会社寺島農場
96	有限会社栃木元気会
97	有限会社トップリバー
98	利根川生産者グループ
99	株式会社ナカショクミートフーズ
100	有限会社中山食茸
101	株式会社菜の花エッグ
102	新潟かがやき農業協同組合
103	株式会社ニッコー
104	有限会社日本の稲作を守る会
105	有限会社白州森と水の里センター
106	株式会社花園たまや

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

関東・中部ブロック	
107	農事組合法人葉菜野果産直
108	株式会社パシフィック・トレード・ジャパン
109	株式会社ファーマン
110	フォレスト・ファーム
111	有限会社フレンズファーム
112	三浦半島EM研究会（EM生活通販株式会社）
113	農事組合法人御坂うまいもの会
114	南伊豆太陽苑生産者グループ
115	南埼玉産直ネットワーク
116	みなみ魚沼農業協同組合
117	有限会社宮本養鶏
118	ももっこファーム山梨
119	株式会社野菜くらぶ
120	やさと農業協同組合
121	株式会社八街産直会
122	農事組合法人八千代産直
123	やはた会
124	有限会社山口養豚場
125	有機栽培あゆみの会
126	有限会社沃土会
127	農事組合法人郷園

関西・以西ブロック	
128	イシハラフーズ株式会社
129	うまか有機銘茶会
130	株式会社沖縄物産企業連合
131	おても会
132	鹿児島くみあい食品株式会社
133	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
134	かごしま有機生産組合
135	紀南農業協同組合田辺印の会
136	紀ノ川農業協同組合
137	有限会社九州青果物流通センター
138	有限会社草枕グループ
139	有限会社高生連
140	高知県農業協同組合
141	株式会社さかもとふる一つ
142	株式会社ささ営農
143	佐藤農場株式会社
144	株式会社産直南島原
145	さんまる柑橘同志会
146	有限会社島原自然塾
147	農事組合法人しもつコープファーム
148	神内ファーム二十一株式会社すずき牧場
149	有限会社大紀コープファーム
150	農事組合法人たいよう農園
151	たじま農業協同組合
152	筑前あさくら農業協同組合
153	株式会社長有研
154	株式会社鳥越ネットワーク
155	農事組合法人ながさき南部生産組合
156	有限会社なかむら農園
157	西日本有機農業生産協同組合

関西・以西ブロック	
158	農業生産法人株式会社ニューズ
159	有限会社農民連京都産直センター
160	有限会社肥後あゆみの会
161	広島県果実農業協同組合連合会
162	福岡八女農業協同組合
163	株式会社フレッシュダイレクト
164	有限会社真南風
165	株式会社マルタ
166	有限会社マルハ園芸
167	株式会社地域法人無茶々園
168	有限会社やさか共同農場
169	一般財団法人夢産地とさやま開発公社
170	有限会社ゆらぎふぁーむ

賛助会員	
171	えりも漁業協同組合
172	大隅地区養まん漁業協同組合
173	恩納村漁業協同組合
174	有限会社カネモ
175	富栄海運有限会社唐津営業所シーボーン昭徳
176	全国漁業協同組合連合会
177	長崎県漁業協同組合連合会
178	野付漁業協同組合
179	北海道漁業協同組合連合会

パルシステムグループ	
180	生活協同組合パルシステム東京
181	生活協同組合パルシステム神奈川
182	生活協同組合パルシステム千葉
183	生活協同組合パルシステム埼玉
184	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
185	生活協同組合パルシステム山梨 長野
186	生活協同組合パルシステム群馬
187	生活協同組合パルシステム福島
188	生活協同組合パルシステム静岡
189	パルシステム生活協同組合連合会
190	株式会社パル・ミート

■会員数（2025年3月1日時点）

東北・北海道ブロック	41会員
関東・中部ブロック	86会員
関西・以西ブロック	43会員
賛助会員	9会員
パルシステムグループ	11会員
合計	190会員



パルシステム生産者・消費者協議会